

## 「中国报」（中国レポート 第四号）

### 変化を続けるシェア自転車

～Mobike を買収した美团が新車を投入～

#### ◆Mobike ブランドは消滅するのか

中国の新四大発明のひとつと称されていたシェア自転車だが、あっという間に全国に広がり、あっという間にビジネスモデルや経営主体が変化してしまっている。

右の写真は 18 年 1 月の北京市の地下鉄の駅の出入り口の風景だが、夕方の通勤帰りの利用者のために、自転車が整然と配置されている。この黄色の自転車は、この後衰退する ofo の自転車が並んでいるものだ。ofo は 2014 年に北京大学でスタートしたビジネスである。北京大学構内（めちゃくちゃ広くて徒歩での移動は不可能）で自転車を共有して、自由に乗り捨てができるというビジネスモデルがその始まりとされる。



18 年のはじめには、ofo と写真の向こうに見えるオレンジ色の Mobike の 2 社が激しいシェア争いをしていた。ofo は 99 元（もしくは 199 元）のデポジット（押金）を預ける（当時 Mobike は 299 元）ことで、低料金で利用できるという仕組みだったのだが、シェア自転車が話題になるとデポジットなしの業者が新たに参入し、競争が激化してきたため、デポジットの返還要求の動きが出てきて同社は資金的に行き詰まった。

Mobike もその後ネット出前サービスが主力の美团点评（美团集团）に買収されている。

ただ、この中国のいつでもどこでも自転車に乗れて、いつでもどこでも乗り捨てることのできるというビジネスモデルは、非常に便利で、北京のように通りのブロックが広くて、しかも人が歩いて移動しやすく出来ていない



（突然行き止まりになる道も多い）都市では非常に重宝する。歩いて移動するにはちょっと不

便だけど、タクシーに乗るにしても、場合によっては左折禁止や渋滞で歩いたほうが早い・・・  
というような理不尽なことが多々ある中国の北京のような大都市では、この上なく便利な「足」  
である。しかも北京は坂がないので、交通事故にさえ気をつければこの上なく便利な乗り物で  
ある。(ちなみに坂の多い大連ではシェア自転車はほとんど普及していない。)

筆者はまだ駐在時代の銀行口座があるおかげでスマホ決済が使える。Mobike がデポジット  
不要になった際、北京出張時に登録し、移動に利用していた。競争のおかげで利用料金が 30  
分で1元 (現在は15分1元) というのは、かなり安い。

スマホにアプリをダウンロードして、本人認証 (顔写真とパスポートの写真を送信すると、  
身分確認終了後利用可能になる) すればOK。利用する時はスマホのカメラで自転車のQRコード  
をスキャンするだけで、施錠が解除され利用可能になるというものだ。目的地に着けば自転  
車を停めて、鍵を元通りに掛ければ、それで終了という具合で要領さえわかれば非常に簡単で  
ある。

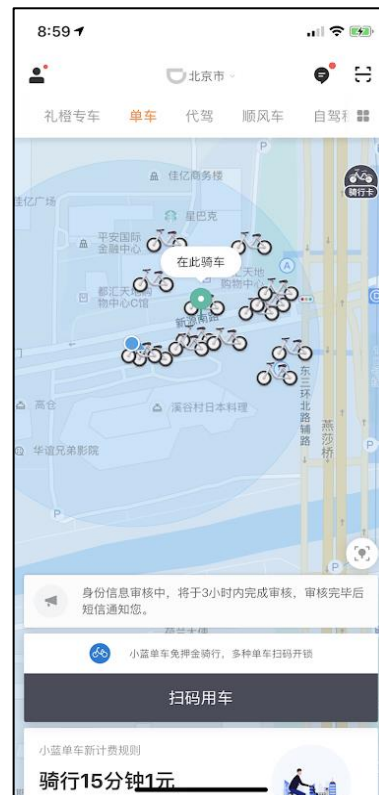
解錠後、自転車の不具合に気づいてすぐに施錠すれば、「なにか自転車に問題があったのか」  
とメッセージが送られてきて、きちんと回答すれば、その分に関しては料金も取られないとい  
う仕組みになっている。

下の写真は左が Mobike の画面で右が滴滴出行のアプリの中にある「單車 (Bluegogo)」の  
画面だ。

ピンが立っている場所が、自分のいる場所でその周りの丸のマークや自転車マークが現在利  
用可能なシェア自転車の置かれている場所を表示している。

スマホ決済とマッ  
プ、GPSの位置情報を  
組み合わせたビジネ  
スモデルだが、うまく  
考えたものだと感心  
する。

北京市に関してい  
うと、現在は ofo がほ  
ぼ壊滅状態で  
Mobike、Bluegogo、  
HelloBike の3つが争  
っている。滴滴出行の  
管理下にある「小藍單  
車 (Bluegogo)」、アリ



ババ傘下の「哈罗骑行 (HelloBike)」に前述の美団の「摩拜單車 (Mobike)」の3社だが、現  
在は Mobike が従来の Mobike アプリでは利用できなくなり、美団のアプリの中にある「美団



単車」で登録し直さないといけない。これまで、Mobikeは単独の Mobike アプリで運用されていたものが、美团のアプリの中に組み込まれてしまった。美团としては、アプリを取り込むことで相乗効果が得られると判断したものであろう。このアプリの中に各種サービスを取り込むという構造は、支払宝 (Alipay) のアプリの中に HelloBike のアプリがあるのや滴滴出行のアプリの中に Bluegogo のアプリが組み込まれているのと同じ構造である。



美团集團の新品シェア自転車

Mobike ブランドは美团単車に全て切り替わり、自転車のカラーリングも新しくなり、なぜか ofo のイエローが統一カラーに選ばれた。Mobike ブランドはどうもなくなってしまった。筆者のように Mobike の登録をしていたものは、再度美团アプリで登録し直さないといけなくなり、継続性はない。

#### ◆ギグ・エコノミーのニュービジネス？

ニュービジネスというと大げさだが、シェア自転車の隆盛によってこれまで存在しなかった新しい仕事が生じている。写真にあるような、三輪自動車で自転車を移動させるビジネスである。中国のシェア自転車は乗り捨て自由なため、朝の通勤時は駅の出口に自転車が配置されていなければならない。

また夕方には、利用者があちらこちらに乗り捨てた自転車を再度利用者の多い場所に配置しておかなければいけない。この移動の作業を担うのが、農民工と呼ばれる出稼ぎ労働者だ。ネット通



販やフードデリバリーの配達分野でも多くの農民工が働いている。出稼ぎ労働者の労働力を現在急拡大しているニュービジネスが吸収しているという構図がある。

出張者は居留証が無いため利用できないシェア自転車だが、試すことは可能だ。中国に住んでいてスマホ決済のできる知人に、施錠を解除してもらえばいい。目的地まで移動して利用を終了する際に施錠するだけでいい。こうすればスマホなしでも利用する事ができる。利用料金も 2,3 元ならおごってくれるのではないだろうか。

(2019/10 森山博之)

本レポートに関する問い合わせ先：<https://arc.asahi-kasei.co.jp/contact/>